

# 安倍外交の

# 試練



川上高司

## ◆4◆

遅れ」と指摘し、世界中に衝撃を与えた。あれから、

9年がたったが、実現にはほど遠い。

オバマ氏は、核兵器廃絶へのモメントム(勢い)を失わせなため、10、12、14年の3回、「核安全保障サミット」

オバマ氏にとつて、大統領在職中の被爆地訪問は、「核兵器なき世界」の重要性を訴えた自分自身の「レガシー」(遺産)を完結させる悲願だと考えられる。

米国内には「(オバマ氏は)核の平和に向けて都市(広島)を訪問すべきだ」

# オバマ広島訪問と核抑止力

の締めくくりの演説を広島で行うのか。

を開催した。今年3月には、50カ国以上の参加をみて、任期中最後の同サミットをワシントンで開いた。



(ワシントン・ポスト紙、4月16日)という見解が多いが、「広島について謝罪すべきでない」(ナシヨナル・ジャーナル、4月15日)という反対意見もある。

## 中国保有数、米と同等なら効力どこまで

「核兵器なき世界」が模索されるなか、北朝鮮や中国の「核の脅威」に対し、どのように抑止力を維持するか。安倍外交の試練である。拓殖大学海外事情研究所

オバマ氏は、核兵器廃絶へのモメントム(勢い)を失わせなため、10、12、14年の3回、「核安全保障サミット」

日本は現在、北朝鮮と中国による「核の脅威」に直面しており、米国の「核の傘」を借りることで抑止している。だが、北朝鮮の核ミサイルが本土まで届くようになり、米国と中国が核保有数で並べば、米国の「核の傘」はそのまま有効なのか。

4人は冷戦時代、米国の核戦略を構築して運営した当事者たちだ。その彼らが核報復の脅しによる抑止戦略は時代

のよう、北朝鮮は今年15日、米軍の戦略拠点グアムも射程に入れる新型中距離弾道ミサイル「ムスタン」(射程2500〜4000キロ)の発射実験を行った。実験は失敗に終わったが、北朝鮮の核ミサイルが本土を射程に収めるのは時間の問題だろう。

所長